

僕の住民監査請求 第二部 惑乱篇

中 相作

またそんなことをやっておるのか

「世間には『歴史はくり返す』という言葉葉がありますけど」

「よく耳にしたりつかつたりしますね」

「でもあれはうそですからね」

「そうなんですか」

「君という人間が生まれて死んでいく」

「なんですもん縁起でもない」

「そんな君の人生はこの世界でただ一度だけ始まって終わるものなんです」

「それはそうでしょうね」

「君という人間はただひとりです」

「僕がふたりもいたら困りますから」

「他人の空似ゆうのはありますけど」

「それはたまたま似てるゆうだけだね」

「公明党の冬柴鉄三国土交通大臣が少年警察官こまわり君に生き写しやとかね」

「そんな失礼な君。こまわり君ゆうたら漫画ですがな」

「こまわり君の線でゆうたら引退した伊

良部秀輝投手も負けてないんですけど」

「漫画はあかんゆうのだから」

「あそこまでそっくりやったらええんですけどなかには困った人もいてまして」

「何が困るんですか」

「最近ではコムスンですか」

「例の介護サービスの会社ですか」

「不正経営をしてたゆうので厚生労働省からきついのかまされてましたけど」

「テレビで謝罪会見もやりました」

「あれがじつに困ったもんでして」

「なんですもん」

「あの会見で涙目になってた会長さんが絶対誰かに似てるんですけど誰に似てるのかももうひとつはつきりしないんです」

「どうでもよろしがなそんなこと」

「けど週刊誌とかインターネットでは誰に似てるかゆう話題が花盛りでした」

「君とおなじように誰かに似てると感じた人がたくさんいたわけですか」

「メタボリックシンドローム対策にビリーズブートキャンプを始めた主婦とおなじぐらいたくさんいてるでしょうね」

「たとえばややこしすぎますがな」

「それで松田優作に似てるとかスマップの中居君とか雅楽の東儀秀樹さんとか」

「それやったら二の線やないですか」

「そうかと思うと『週刊文春』には『キン肉マン』に出てくるウォーズマンそっくりやとか書かれてましたし」

「君なんの話をしてますもん」

「つまり君にそっくりな他人が存在していたとしてもそれは君ではないんです」

「他人はあくまでも他人ですから」

「同様に何かの歴史ゆうのもこの世で一回だけ始まって終わるものなんです」

「それがどないぞしたんですか」

「つまり歴史がくり返されることはないんですけど似たようなできごとが新しく始まって終わることはあるんですね」

「どうも理屈っぽいですな」

「要するに人間のやることは似たようなものになりがちなわけなんです」

「それはそうかもしれません」

「そうゆう意味ではんまに歴史はくり返すもんやと感心させられるんですけど」

「いったいなんの話なんですか」

「名張まちなか再生プラン」

「えらい回りくどいマクラでしたけどやっぱりその話題ですか」

「ほかに話題なんかありません」

「そしたら名張まちなか再生プランはどんな歴史のくり返しなんですか」

「見事なまでに『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』とおなじことがくり返されてるんです」

「君あの話はまだ蒸し返すんですか」

「もう三年前のことになりますね」

「たしかに二〇〇四年に伊賀の蔵びらきという三重県の官民合同事業が伊賀地域でくりひろげられたわけですけど」

「惨憺たる失敗に終わった伊賀の蔵びらきの悪夢がいまここによみがえる」

「悪夢ゆうこともないでしょうけど」

「けど君まるで悪夢のようにおなじことがくり返されてるわけですから」

「どのへんがおなじですもん」

「最初に予算のばらまきがあつてそれを消化するためにつくられた官民合同組織が大騒ぎしたあげくわけのわからんままにすべてが終わつてしまふんです」

「まるつきり無茶苦茶ですがな」

「ほんま無茶苦茶なんですけどまず予算のばらまきについて説明しますとね」

「伊賀の蔵びらきの場合は街道フェスタと東紀州フェスタのあとが伊賀地域にばらまかれる番やつたゆうようなことで」

「北川正恭前知事が敷いたばらまきのルールをまんま踏襲した野呂昭彦知事が血税三億円をどぶに捨ててくれまして」

「そしたら名張まちなか再生プランの予算もやっぱりばらまきなんです」

「まちづくり交付金という名目で国が地方にばらまいてるんです」

「伊賀の蔵びらきより大規模ですな」

「二〇〇四年に都市再生特別措置法が改正されて自治体のいわゆるまちづくりを支援する交付金制度が創設されました」

「そしたら名張市もその交付金を活用したらええのとちがうんですか」

「けどこの制度には批判もありまして」

「どこがあきませんねん」

「支援の対象が土木建設事業のレベルですからまったく旧態依然やないかと」

「昔ながらの発想やゆうことですか」

「全国の地方がここまで衰退したのは規制緩和をはじめとした国政の重大な過誤の結果であるという指摘もありますし」

「旧態依然とした国の政策では地方を再生することはできないゆうわけですか」

「ただでさえ国から分配されるお金が減つてきてる名張市が国の交付金にすがりつくのはようわかるんですけどね」

「たとえばばらまきであつてもそれをうまく利用することはできないもんですか」

「それもまたおなじことなんです」

「何がおなじことですもん」

「あの悪夢がよみがえる」

「それはもうええから」

「伊賀の蔵びらきるときも僕は事業の準備段階で指摘してたんですけど」

「指摘といいますか悪口といいますか」

「ばらまかれる予算を有効につかえるだけの知恵のある人間がおるのかと」

「君そんなぐあいに頭から決めつけたらあきませんか」

「お役所の人たちのレベルは重々承知してますけど地域住民があれやぞと」

「あれやぞだけではわかりません」

「あほやぞと」

「あほあほゆうなゆうとるやろ」

「けど伊賀の蔵びらきの旗のもとにつどつたのはおのれの趣味や道楽の延長上に一円でも多く税金をかき集めようという乞食みたいな連中ばかりでしたからね」

「そんなことゆうたら叱られますがな」

「それで何をやってくれたかゆうとご町内の親睦行事を寄せ集めることでして」

「事業の趣旨は伊賀の魅力为全国発信ゆうようなことでしたけど」

「実際にはせいぜい全国紙の伊賀版のエリア内に発信できた程度でした」

「残念ながらそんな印象でしたね」

「あれとおなじことをくり返してるのが名張まちなか再生プランなんです」

「どのへんがおなじですんねん」

「まず委員会組織です」

「名張まちなか再生プラン関連では名張地区既成市街地再生計画策定委員会と名張まちなか再生委員会がありますけど」

「伊賀の蔵びらき事業では二〇〇四伊賀びと委員会と『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』事業推進委員会ゆうのが組織されました」

「なんや委員会だらけですな」

「これはもうお役所の病気なんです」

「どんな病気ですんねん」

「お役所の人たちは責任回避を第一義として仕事に励んでくれております」

「君がよく指摘することですけどね」

「責任回避のためやったら親でも平気で殺してしまいますから」

「殺さへん殺さへん」

「いっぺんぐらい大義親を滅すゆうような気概で仕事してみたらどやねん」

「難しい理屈はいいですから先に進んでくれませんか」

「つまり責任回避のためにやたら委員会とかつくってしまうわけなんです」

「たしかに組織が複雑になったら責任の所在があいまいになりますからね」

「誰も何も考えません。ごくオートマチックにそうなってしまうんです」

「お役所では脊髄反射みたいにして委員会がつくられてしまうゆうことですか」

「委員の人選なんかでも自動的にぱたぱた決まってしまうすからね」

「人選の基準はあるのところがいいですか」

「それはお役所にとつて都合がいいとか御しやすいとかあるいはその人を選ぶことによつて委員会に箔がつくとか」

「そんな人ばかり集めた委員会で大丈夫なんですか」

「その答えは名張まちなか再生プランが如実に示しているというべきでしょう」

「いっつも大丈夫やないですがな」

「ですからわけのわからんことになって官民双方もう涙目になつてる状態なんですけど涙目といえればあの涙目の会長さんはほんまに誰に似てるんでしようね」

「知らんがなそんなこと」

「ここでふり返っておくならば要するに内発的なものがどこにもないんです」

「内発的なものといいますと」

「内側から発した動きのことです」

「それが無いということはつまり外側から動かされてるゆうわけですか」

「伊賀の蔵びらきでは三億円のばらまきという外在的要因に芭蕉生誕三百六十年という中途半端な思いつきを無理やりこじつけただけでしたし」

「名張まちなか再生プランの細川邸は内発的なものやないんですか」

「素材そのものは内側にありますね」

「細川邸を素材として活用したいという声は以前からあったようですけど」

「そうした声が内発的な動きとして出てくるまでにはいたらなかった」

「なんでですねん」

「内発的なことを自分の頭で考えられる人間がおらんかったからでしょうね」

「それがまちづくり交付金という外側からの働きかけによって動きが出たと」

「その動きが一步目ですっこけまして」
「ずっこけたといいますと」

「わけのわからん策定委員会つくって丸投げした時点ですべてが終わりました」

「丸投げはあきませんかやっぱり」

「ですから結局は名張市が悪いんです」

「どのへんが悪いんですか」

「名張市が名張まちなかの再生を主体的に考えていなかったのが明らかに悪い」

「他人まかせにしてしまっていたと」

「これは完全に行政の問題なんです」

「それはそうでしょうね」

「名張市は名張まちなかについてどう考えているのかをまず示すべきなんです」

「基本的な考え方を明らかにせよと」

「名張市全体のランドデザインのなかに名張まちなかの再生を位置づけてそれを住民に提示することが先決です」

「それは住民にはできないことですか」

「地域住民は近視眼的になりがちですから別の視点を導入することが必要です」

「高い視点とか広い視野とか」

「よその事例も参考にせなあきませんし地域住民が気づいていないまちなかの可能性を発見する視点も要求されます」

「そうなると住民の手にあまりますね」

「そうゆうことを考え抜いて明確なビジョンを示すのが行政の務めなんです」

「それが全然できてなかったと」

「大切な務めを放棄してそこのあほに丸投げするだけでは何もできません」

「あほ呼ばわりはやめとけゆうねん」

「ですから名張まちなかのアイデンティティの抛りどころは何かというような共通認識はなんにもないままに」

「寄せ集めの委員会に共通認識を期待するのは無理かもしれませぬね」

「いきなり細川邸がどうのこうのとハコモノの話に入ってしまうわけなんです」

「土木建設事業のレベルですか」

「そんなインチキなことではええと思とるのやったら大きなまちがいじゃあッ」

「君いくら怒ったかて手遅れですがな」

「たしかに手遅れですけどこのままにしておくのもまずいかなと思ひまして」

「いったいどないしますねん」

「名張市がこうゆうインチキだらけの歴史を二度とくり返さないように住民監査請求をがつーんとかましますります」

「なんやて君」

せやからこうゆうことになるねん

「いっぺんやってみたかったんです」

「住民監査請求ですか」

「あの伊賀の蔵びらきるときにもね」

「君もたいがいしつこいですな」

「けどあんなひどい話はないですから」

「ひどかったことはたしかでしょうね」

「二〇〇四伊賀びと委員会が事業の予算

を決めて『生誕三六〇年芭蕉さんがゆく

秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』事業推進委

員会がそれを承認したわけですけど」

「事業開幕の半年ほど前でしたか」

「二〇〇三年十二月に事業推進委員会が

開かれて総額三億三千七百七十二万八千円

の予算が原案どおり承認されたんです」

「それで予算書の数字がおおまかすぎる

ゆうので君またえらい怒ってましたな」

「事務局が総務費二千四百六十二万五千

円とか広報費一億八十二万三千円とかご

くアバウトな予算額を発表しただけで」

「明細は伏せられたままでしたね」

「僕ええだけ怒ったんですけどあほ

のみなさんは誰も耳をかしません」

「あほ呼ばわりされたらそうなるがな」

「ところがさすがですね。三重県知事だ

けはそんなことありませんでした」

「知事はあの事業では事業推進委員会の

会長をお務めでしたけど」

「事業が始まったあと二〇〇四年七月に

開かれた事業推進委員会で事務局から専

決処分報告を受けたときのことです」

「先決処分といいますと」

「予算の事後承認みたいなことです」

「何かまずいことでもあったんですか」

「広報費の八百万九千円が例によって詳

細を明かさないまま報告されたんです」

「知事はなんとおっしゃいました」

「明細を示しなさい。こんなことでは県

民に対する説明責任がはたせない」

「それはそのとおりでしょうけどはつき

りゆうて出し遅れの証文ですな」

「結局なあなああのだぶずぶやったわけ

ね。ですから事業の決算報告がええかげ

んやったら速攻で住民監査請求やなど」

「決算報告はどうでした」

「結構あやしいところもあったんですけど

ど一応のものが提出されましたので」

「その場合はほこを収めた」と

「いったん収めたそのほこが名張まちな
かにいまよみがえる」

「君そんなことばかりゆうとるがな」

「けどひとつ大きな問題があるんです」

「どんなことですか」

「僕じつは住民監査請求についてほとん

ど知るところがありませんねん」

「そんなことではあかんやないか」

「住民が監査を請求するのやろなゆうぐ

らいのことはわかるんですけど」

「そんなもん誰かてわかりますがな」

「地方自治法の二百四十二条に住民監査

請求のことが規定されてましてね」

「そしたらそれを読まんかいな」

「『普通地方公共団体の住民は、当該普

通地方公共団体の長若しくは委員会若し

くは委員又は当該普通地方公共団体の職

員について、違法若しくは不当な公金の

支出、財産の取得、管理若しくは処分、

契約の締結若しくは履行若しくは債務そ

の他の義務の負担がある（当該行為がな

されることが相当の確実さをもつて予測

される場合を含む。）と認めるとき』」

「それどうゆう意味ですんねん」

「それが僕にもさっぱりでして」

「それやったら請求できませんがな」

「でも普通に考えたら違法あるいは不当に公金が支出された場合に住民が監査を請求できるゆうことでしょうかね」

「つまり税金の無駄づかいかどうか」

「住民の意を受けた監査委員がそれをチェックしてくれるわけなんです」

「ほな名張まちなか再生プランの場合は何が税金の無駄づかいになるんですか」

「一般的な市民感覚でゆうたら細川邸の整備そのものが無駄づかいでしょうね」

「まだ整備されてないのんですか」

「これまでの経過に問題があります」

「実施設計の先送りとかどんな施設にするかがいまだに決まってないこととか」

「これはもう完全に異常事態なんです」

「民間ではありえないことでしょうね」

「こんなもん民間やったら目玉とびだすほど延長料金とられてるところですから」

「そうゆう話をしてるのやないんです」

「ここまで時間をかけてまだ結論が出ないという異常事態は何を意味するのか」

「なんですかねん」

「わざわざ税金つくて細川邸を整備する必要なんかないということですよ」

「用途がいつまでも決まらないゆうことは裏を返せばそうなるでしょうね」

「用途もないのに施設つくって喜ぶのをハコモノ行政と呼ぶわけですけど」

「そしたら細川邸の整備事業が住民監査請求の対象になるんですか」

「ところがちよつと無理っぽい」

「細川邸を整備することはイコール違法あるいは不当な公金の支出であると君どうやって証明できますねん」

「なるほど。税金の無駄づかいやと証拠だてるものはどこにもないですからね」

「しかしやっぱり税金の無駄づかいであることは明々白々なんです」

「普通の市民感覚とか住民感情でゆうたらまちがいなくそうなるでしょうね」

「税金の具体的なつかいみちがこんなインチキにインチキを重ねたプロセスによって決められてええわけがないんです」

「そしたらプロセスそのものを監査請求の対象にしたらどうなんですか」

「そぐわない」

「そぐわない」

「事業のプロセスを対象とすることは住民監査請求という制度にそぐわない」

「そうなんですか」

「名張市役所の三階に監査委員・公平委員会事務局ゆうのがあるんですけど僕そこでいろいろと教えてもらいました」

「専門家の教えを仰ぎましたか」

「そろもういかにも切れ者みたいな事務局の女性スタッフがきらっ」

「きらっゆうのはなんですかねん」

「おしゃれな眼鏡をきらっつと光らせながら教えてくれましたがな」

「眼鏡の説明はどうでもええねん」

「それでまあそれやったら中さん名張市に情報公開を請求して関連資料とかほかにも新聞記事とか集めてみてくださいと懇切なアドバイスをいただきました」

「資料を集めてみたんですな」

「すると捜査線上に思いがけない名前が浮かびあがってきたんです」

「捜査線上で君いつたいたいいつから刑事やってるねん」

「二〇〇六年度が終わりまして今年四月のことでした」

「新年度が始まってどないになりました」

「僕は名張市役所の一階にある市民情報センターを訪れました」

「いよいよ情報公開の請求ですか」

「そのセンターで公文書公開請求書ゆうのを書いて提出したらええんですけど」

「なんですかねん」

「公開してもらおうにもどんな公文書があるのかようわかりません」

「なんや頼りない話になってますがな」

「そこで名張まちなか再生委員会の事務局に依頼して二〇〇五年度と二〇〇六年度に委員会がどんなことで予算をつかったのかリストにまとめてもらいました」

「君もほんまに世話の焼ける男で」

「僕はそのリストに鷹のように鋭く厳しいチェックの目をそそぎました」

「何か見つかりましたか」

「きらっ」

「また女性スタッフの眼鏡ですか」

「今度は僕の目が光ったんです」

「そうゆう描写は必要ないですから」

「リストにはたとえば『(測試) 細川邸実施設計委託料』ゆうのがあります」

「先送りになってたやつですな」

「契約額は四百六十九万七千円」

「それを監査してもらうんですか」

「これを監査したとしても契約額は適正でしたゆう結果しか出ませんやろ」

「プロセスが不当であっても実施設計そのものは正当なものでしょうからね」

「そうゆうことです。実施設計とか解体除却工事とかいろいろあるんですけど」

「監査上の問題はないんでしょうね」

「『(測試) 名張地区既成市街地空間デザイン方針等検討業務委託』ゆうのもあって契約額が八百万千円でした」

「それ何を検討してもらいましたん」

「リストにはこうあります。『榊田医院第二病棟』跡地整備実施計画等。『榊田医院第二病棟』解体除却設計。公共サイン実施計画等。まちなか再生事業総括執行管理支援。季節伝統行事を活かしたまちなか再生事業の企画・検討支援」

「季節伝統行事を活かすとかゆう話になると趣旨がずれてきてる感じですけど」

「けどしょせんハコモノ崇拜主義とイベント尊重思想のあいだで深い考えもなしにふらふら揺れてるだけの話ですから」

「たしかにハコモノかイベントかの話ばかりみたいですけどね」

「そのほかに『(測試) 名張まちづくり塾』ゆうのがありますね。契約額は百四十九万九千円」

「それはなんですかねん」

「いつさい不明です。これまでに見たことも聞いたこともありません。きらっ」

「それはええねん」

「しかも驚いたことにこれは他人の空似とかそうゆうことでは全然なくてね」

「なんの話ですかねん」

「この塾の契約相手がわかりますか」

「どこの進学塾ですか」

「国立大学法人三重大学です」

「それは奇遇ですね。たしか名張地区既成市街地再生計画策定委員会の委員長さんも三重大学の先生でしたし」

「せやから他人の空似とかたまたまとかそうゆう話やないんですこれは」

「どうゆうことですかねん」

「こうして捜査線上に三重大の名前が浮かびあがってきたのであった」

「誰も捜査なんかしてないゆうのに」

「事務局に尋ねたところ三重大には細川邸の実施設計のために研究をお願いして報告書も出していただいたそうで」

「報告書があつたんですか」

「満を持していた僕はついに公文書二件の公開請求に踏み切りました」

「どんな公文書ですねん」

「一件は名張まちなか再生委員会歴史拠点整備プロジェクトの議事録です」

「プロジェクトゆうのはなんですねん」

「再生委員会にはプロジェクトと呼ばれる五つの組織があつて細川邸を担当するのが歴史拠点整備プロジェクトです」

「そしたらもう一件は」

「三重大から提出された報告書をすべて公開してくださいと」

「やっぱりの塾を攻めたんですか」

「報告書は『歴史・交流拠点としての旧細川邸改修に向けて』というタイトルでA四サイズ百三十七ページ」

「どんな研究ですねん」

「報告書によりますと『歴史的建造物改修に係る基本設計業務ならびに当該建造物を活用した管理運営モデルの開発、運営効果の測定に関する研究及び実践』という受託研究の契約が結ばれました」

「なんや難しそうすな」

「つまり細川邸を改修するための基本設計を行う。細川邸を活用するためにどう管理運営したらええのかを考える。その考えにもとづいて運営した場合の効果を予測する。そんな感じでしょうね」

「それを研究していただいたと」

「名張市の依頼を受けて三重大の浦山研究室が研究するという契約が締結されたわけなんですけど君このね」

「なんですねん」

「浦山研究室を主宰していらっしゃる先生こそ誰あろう」

「どなたですねん」

「名張地区既成市街地再生計画策定委員会の委員長をお務めやった方なんです」

「えーッ」

「歴史はくり返していたわけなんです」

「いったいどうなってるんですか」

「つまりその先生が委員長をお務めだった策定委員会は細川邸を歴史資料館として整備すると決定したんですけど」

「再生委員会がその歴史資料館構想を白紙に戻してしまつたわけですね」

「再生委員会は細川邸にかんじていわば先生の決定を否定したことになります」

「その否定された三重大の先生が」

「まさにその細川邸を改修するために乗り出してくださいっていたんです」

「えーッ」

「名張まちなか再生委員会はここによくひとつの再生をなしとげました」

「どうゆうことですねん」

「歴史資料館構想を否定されてしまった先生に再生の道をお示しすることができたんです。じつにええ話ですね。感激のあまり僕もう人目もはばからず涙目で」

「そんな問題とちがうかな」

「あッ。涙目で思い出したんですけど君あの涙目の会長さんてちよつと藤木孝に似てると思いませんか」

「知るかそんなこと」

(住民監査請求をめざす名張市民)